

団結と自立心で運営

AMDA活動報告

救える命があれば

まいぐでも

□23□

菅波 茂



第一回AMDAアメリカ地域会議を十一月二十五日から二日間、ホリビア第二の都市であるサンタクルス市で開いた。日本、ボリビア、カナダ、ペルー、ホンジュラス、そしてブラジルからの参加者で、緊急救援体制の強化や貧困対策プログラムを話し合った。

前日にサンタクルス郊外にあるコロンニアオキナワを訪れた。ボリビア沖縄県人会の比嘉次雄会

長に案内していただいた。苦労は多々あったが、自営農家としての戦後の移民は、戦前の雇

者としての移民よりもより良い環境だったとい

コミュニティ薬局

診療所として慰霊碑とコミュニティの中核施設が完備していた。現地の人との結婚も増え、沖縄移民の幸せだけでなく、コミュニティ全体の幸せを推進する時期がきていると認識されていた。

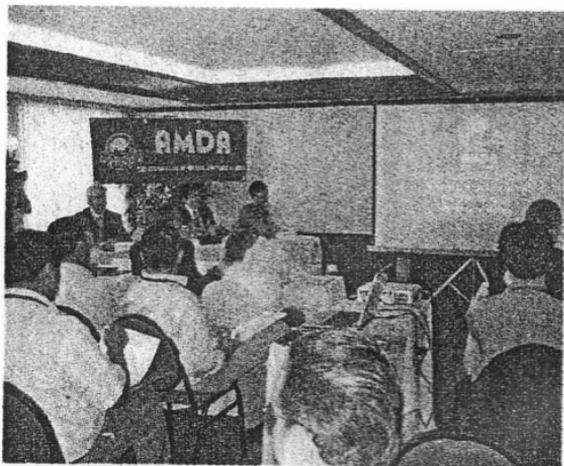
サンタクルスに来る前にペルーの首都リマ市で日系移民の方々にお会いした。成功された方々で勢いがあった。評判の良い「日秘診療所」に加え、移民百周年を記念して建設された総合病院「百周年協立病院」を開

設されたばかりだった。近郊にある国際協力事業団(JICA)支援の医療センターも訪れた。

途中、三十万人が住むスラム地域を通過した。草木一本ない乾燥した砂が舞う山肌、マッチ箱のような家が密集していた。電気はつくが水がない。時の政権から見放された地区である。リマ市と比べると、まさに天国と地獄である。今、中南米で貧困層が支援する左翼政権が勢力を増している現実が良く理解でき

た。

ホンジュラスから広がり



い。コミュニティの人たちが小さな薬局を運営する意欲と能力形成が中心である。初期資本を回転させることも評価の対象である。

コミュニティの団結と自立心なくしては不可能である。相互扶助あるいはユイマルの精神を支援するプログラムであ

ないし、良い仕事もできないよ」と助言をいただいた。事実、ブラジルではイタリア系やドイツ系が多数派である。AMD Aボリビア支部長のフォイアニ家は副大統領を出したイタリア系の名門である。副支部長はスペイン系である。

に勝る喜びはない。

ブラジルからわざわざ参加していただいた民間大使の赤嶺尚由夫妻がAMDAブラジル支部設立に尽力してくださることになった。「サンパウロからは東北ブラジルよりのサンタクルスの方が近いよ。近所に来ている感覚だよ」。ありがたい限りである。「移民も本国に頼る時期から、自ら独立して物事を考えて実施する時期が来ている」と断言された。

「日系人だけのことを考えるのはもう時代遅れだ。もつと民族を超え、全体的に考えないと優秀な人たちの協力も得られないし、良い仕事もできないよ」と助言をいただいた。事実、ブラジルではイタリア系やドイツ系が多数派である。AMD Aボリビア支部長のフォイアニ家は副大統領を出したイタリア系の名門である。副支部長はスペイン系である。

同会議は私にとって中南米におけるAMDAの活動を再考する非常に良い機会となった。「百聞は一見に如かず」は、本当に名言だった。それでも沖縄にこだわりたい私の気持ちを理解していただければ幸いである。最後に、二年間にわたる連載の機会をくださった沖縄タイムス社に、心からお礼を申し上げたい。

AMD A (特定非営利活動法人アマダ) 理事長 (おわり)